

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科  
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011 年度 JASSO 派遣報告書

報告者氏名 前川 護之

平成 22 年度入学

## 1.研究課題:

南アフリカ、地方タウンシップにおける携帯電話の普及と社会動態の関係

## 2.派遣期間:

平成 23 年 8 月 14 日 ~ 平成 23 年 10 月 27 日 ( 75 日間)

## 3.今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

申請当初は携帯電話の普及と地域の社会動態との関係を明らかにすることを目的として掲げていたが、インタビュー等の調査を進めるうちに調査地での携帯電話の普及の歴史は意外と古く、短期間の調査では携帯電話普及による影響を測ることは困難であることが判明した。しかし、携帯電話の歴史が古く人々の生活に浸透しているため、先進国とは違った独特なテレコミュニケーションの様式が形成されていることが分かった。例えば、パブリックフォンは最近二、三年で大幅にその数を増やしていることが分かった。半年前の予備調査と今回の調査の間にも新たなパブリックフォン店舗がいくつもできており、急激な変化が見られた。また、これらのパブリックフォンの利用者の大半は携帯電話を所有していた。さらに、通信履歴記録やインタビューから、パブリックフォンの利用の他にも、コールバックと呼ばれるサービスや Mxit というソーシャルネットワーキングサービスが一般的に利用されていることがわかった。

## 4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について

今回の渡航中、現地大学の教授と面会し、研究についての意見交換を英語で行った。その際、一対一での会話でなら自分の英語力である程度通用するものの、より深い議論をするには英語力が不足していると感じた。さらに、特に英語話者同士の会話に混ざることが非常に困難に感じた。また、今回の調査はすべて通訳を介して英語で行ったが、より良い調査を行うためには現地語の習得は必須であると痛感した。このように、語学の習得は今後の海外渡航に向けた課題である。

今後は、博士論文のための調査のために主に南アフリカに渡航することになる。また、博士課程中あるいは博士課程修了後にはアフリカ研究が盛んな欧米や南アフリカの大学に留学して、自身の研究能力を高めたいと考えている。

## 5. 本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか？

アフリカの物価は日本に比べて低いのでアフリカで長期間滞在することの金銭的負担は大きなものではないが、日本からアフリカへの航空運賃は非常に高額で、自費では容易に賄えるものではない。アフリカ研究を志す者にとって、その志をかなえる物として本プログラムは非常に有用であり、多大なる感謝の念を抱いている。また、プログラム上の渡航に際する制約が少なく、自由に調査がやりやすかった。

今後、海外の大学の研究機関への派遣、語学研修や海外での学会に参加するためのプログラムがあれば参加したいと思う。

署名